

西三里塚第2代替地 埋蔵文化財調査報告書2

—成田市西三里塚遺跡—

平成16年9月

成田国際空港株式会社
財団法人 千葉県文化財センター

西三里塚第2代替地 埋蔵文化財調査報告書2

一成田市西三里塚遺跡一



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第496集として、成田国際空港株式会社の西三里塚第2代替地の造成事業に伴って実施した成田市西三里塚遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査では、縄文時代早期～前期の多数の土器片が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成16年9月

財団法人千葉県文化財センター
理事長 清水新次

凡　　例

- 1 本書は、成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）による西三里塚第2代替地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書の第2冊目である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県成田市西三里塚252-6ほかに所在する西三里塚遺跡（遺跡コード211-065）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田国際空港株式会社の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、第1章、第2章、第3章を副所長 池田 大助が、第2章を上席研究員 西口 徹が担当し、編集は副所長 池田 大助が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田国際空港株式会社、成田市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「成田」(NI-54-19-10)
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による平成13年撮影のものを使用した。
- 9 基準点測量及び地形測量は日本測地系に基づいて行った。
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 11 挿図に使用したスクリーントーン及び記号は、図版中に記載している。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法	1
第2節 遺跡の位置と環境	4
第2章 西三里塚遺跡	6
第1節 遺跡の概要	6
1 遺物	6
土器	6
縄文土器	6
弥生土器	14
古墳時代～中・近世の土器	14
石器・石製品	16
旧石器時代石器	16
縄文時代石器	16
中・近世石製品	18
第3章 まとめ	19
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 西三里塚遺跡位置図	2
第2図 西三里塚遺跡周辺地形図	3
第3図 西三里塚遺跡上層、下層確認調査範囲図	4
第4図 西三里塚遺跡上層確認（拡張）調査範囲図	5
第5図 西三里塚遺跡第1遺物集中地点時期別土器、石器等平面分布図	7
第6図 西三里塚遺跡第2遺物集中地点時期別土器、石器等平面分布図	8
第7図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(1)	9
第8図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(2)	10
第9図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(3)	11
第10図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(4)	12
第11図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(5)	13
第12図 西三里塚遺跡包含層出土石器、石製品実測図	15

表 目 次

第1表 西三里塚遺跡出土石器・石製品観察表	17
第2表 西三里塚遺跡出土土器大グリッド毎 時代時期別数量表	18

図 版 目 次

図版1 航空写真	
図版2 調査風景 南から, 第1遺物集中地点遺物出土状況 北から, 第2遺物集中地点遺物出土状況 北から	
図版3 西三里塚遺跡包含層出土土器(1)	
図版4 西三里塚遺跡包含層出土土器(2)	
図版5 西三里塚遺跡包含層出土土器(3)	
図版6 西三里塚遺跡包含層出土石器, 石製品	

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

財団法人千葉県文化財センターでは、成田国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもと、成田国際空港株式会社の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に多数の報告書として刊行されているところである。

今回報告する西三里塚遺跡は、西三里塚に第2代替地が計画されたため、千葉県教育委員会と成田国際空港株式会社との間で取扱いについて協議した結果、造成地内に所在する3,000m²の発掘調査を実施する運びとなった（第1図～第3図）。なお、隣接地の馬土手の発掘調査については平成14年度に調査を終了し、平成15年度に整理作業を行い報告書¹⁾を刊行した。

西三里塚遺跡の発掘調査と整理作業の期間及び調査体制は以下のとおりである。

平成15年度

期 間	平成16年1月6日～平成16年1月30日
組 織	東部調査事務所長 折原 繁
	担当職員 上席研究員 竹内 久美子
内 容	発掘作業（西三里塚遺跡）
	上層 700m ² ／3,000m ² （確認調査）
	下層 60m ² ／3,000m ² （確認調査）

平成16年度

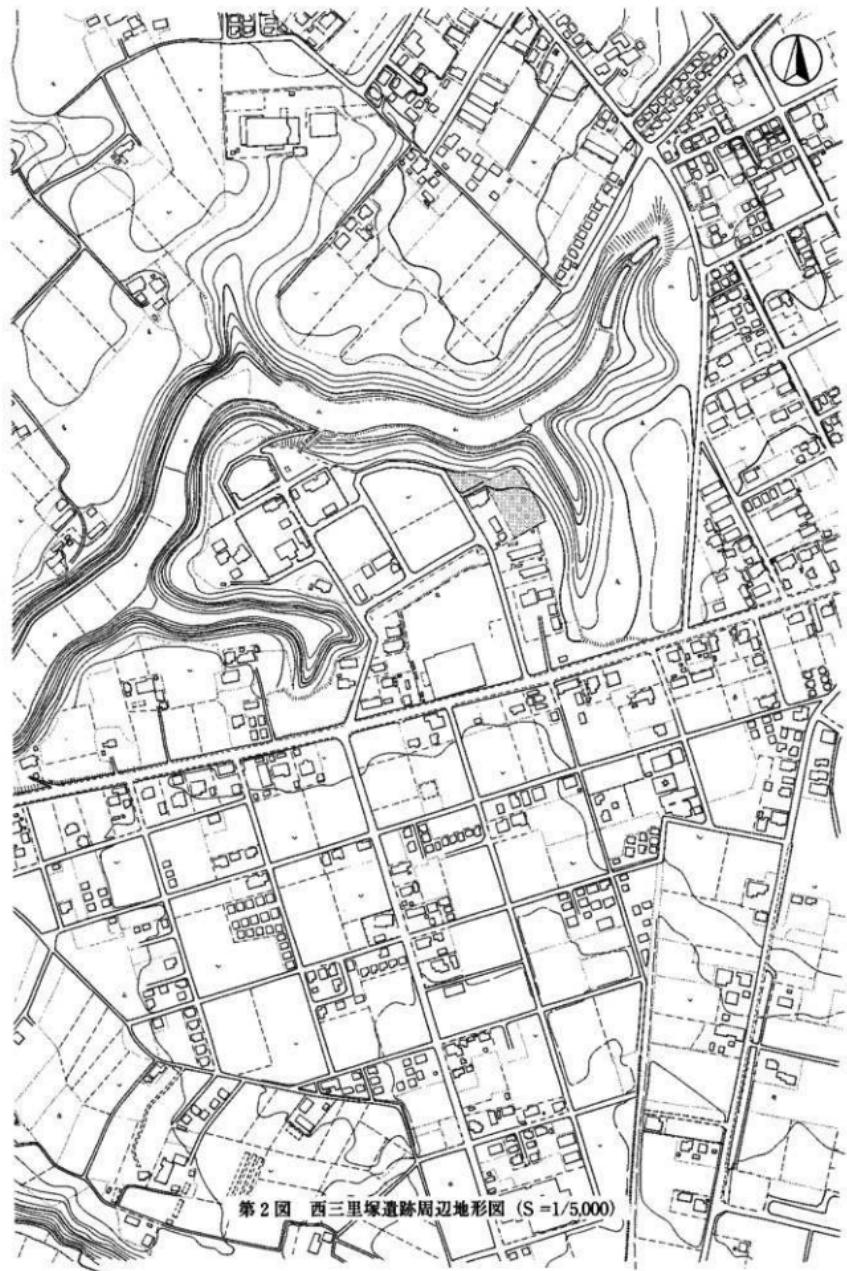
期 間	平成16年4月1日～平成16年5月31日（整理）
組 織	東部調査事務所長 鈴木 定明
	担当職員 副所長 池田 大助 上席研究員 西口 徹
内 容	整理作業 水洗・注記～報告書刊行（西三里塚遺跡）

2 調査の方法

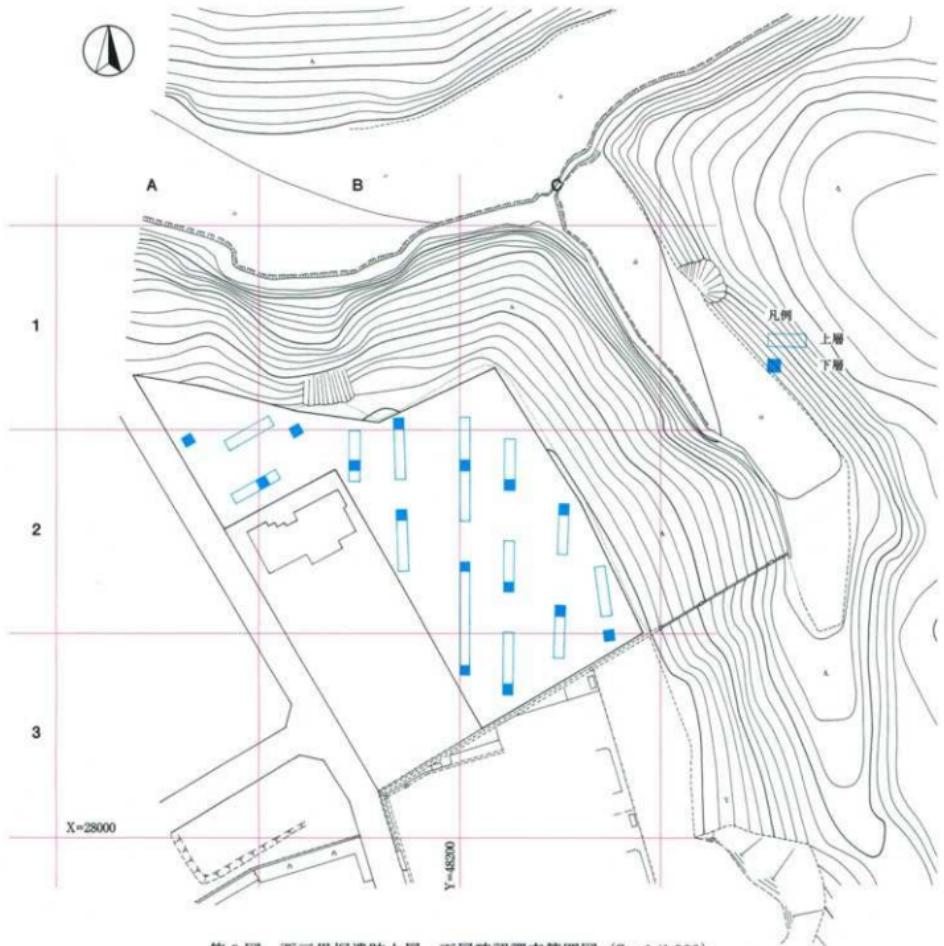
西三里塚遺跡の対象範囲全域に、公共座標に合わせて通常のグリッドの設定を行い、東西南北に20m×20mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に基点を置いて、北から南に1, 2, 3……とし、西から東へA, B, Cとして、これを組み合わせて使用した。大グリッド内は2m×2mに100分割した小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02……として南東隅を99とした。調査は上層確認調査を調査対象面積3,000m²のうちの700m²について行い、一部拡張して調査した結果縄文時代早期の土器片を主体とする遺物集中地点2箇所を検出した。それぞれ遺構が検出されなかったため、確認調査で終了した。下層確認調査は調査対象3,000m²のうちの60m²についての確認調査を行ったが、遺物が検出されなかったため本調査へは移行しなかった。



第1図 西三里塚遺跡 位置図 S=1/50,000



第2図 西三里塚遺跡周辺地形図 (S=1/5,000)



第3図 西三里塚遺跡上層、下層確認調査範囲図 ($S = 1/1,000$)

第2節 遺跡の位置と環境（第1図）

成田国際空港は成田市と西の富里市、南東の芝山町、東は多古町に接している。下総台地の東部に位置し、北辺部は栗山川水系の高谷川や木戸川の水源となり、両河川は北西から南東に向かって流れ、九十九里海岸平野を経て太平洋に注いでいる。事業地は成田国際空港のすぐ西南側に位置し、空港を境に芝山町と接する。事業地近辺には今回検出されたような縄文時代早期の包含層や住居跡等の遺構が多数発見された遺跡が数多く見られる。



第4図 西三里塚遺跡上層確認（拡張）調査範囲図 ($S = 1/1,000$)

今回調査を行った西三里塚遺跡は成田市西三里塚252-6ほかに所在する。栗山川水系の根木名川支流の標高約40mの台地上に位置し、西三里塚所在馬土手を調査した西側の台地上にある。

注1)「西三里塚第2代替地埋蔵文化財調査報告書1－西三里塚所在馬土手－」千葉県文化財センター調査報告書第478集 2004.3 (財)千葉県文化財センター

第2章 西三里塚遺跡

第1節 遺跡の概要

上層の700m²について実施した確認調査及びその拡張調査において縄文時代早期～前期を中心とする土器片等が多数検出された。また、それに伴う石器等も少量検出されている。遺物に伴うような縄文時代の遺構は、全く検出されなかった。なお整理作業で分類した結果、旧石器時代の石器、弥生時代の土器片、中・近世の遺物等縄文時代以外の遺物も検出されていたので併せてここで説明する。

1 遺 物

土器

縄文土器

早期Ⅰ群Ⅰ類（第7図1～14）

いわゆる撫糸文系土器と呼ばれる一群の土器である。全部で130点出土し、第1遺物集中地点の2Bグリッド付近で、特に多く出土している。1～5は口縁部がやや外反し口唇部に原体が圧痕されている。また、外面口縁部～胴部にかけては撫糸文や縄文で施文されている。6～10は胴部破片である。ここでは外面に撫糸文で施文されているものが多く見られる。11～12は口縁部が直立し、外面口縁部～胴部上半にかけて縄文、斜縄文などで施文されている。13は外面口唇部は無文で胴部上半部から撫糸文で施文されている。14は底破片で外面に撫糸文が施されている。全体的には井草式Ⅰ～Ⅱ式あたりの土器片が主体と思われる。

早期Ⅰ群Ⅱ類（第7図15～42）

いわゆる沈線文系土器と呼ばれる一群の土器である。全部で132点出土し、2B・3Cグリッド付近で特に多く出土している。15は口縁部破片である。基本は外面が無文で条線がかすかに見られる。16は口縁部破片である。外面口唇部に押形文、口縁部にかけてかすかに条線が見られる。17は胴部破片である。外面に縱方向の細沈線と斜め方向の条線が施されている。18・19はほぼ同一個体と思われる口縁部～胴部上半部の破片で外面口唇部にかすかに輪積み痕を残す。外面口縁部には横方向に爪形文を配し、以下に斜め方向と横方向の細沈線が施されている。20・21・25～27は胴部破片で胎土に大粒の長石粒を含むのが特徴で外面の所々に横方向の条線が見られる。22～24・28・29も同じく胴部破片で外面は斜め方向の細沈線を施文の主体とする。胎土にはあまり大きい長石粒等は見られない。33・34・37・38・40・42は胴部破片で外面は横方向のやや細目の沈線と斜め方向の細沈線で施文されているものである。胎土にはあまり大きい長石粒等は見られない。30は胴部破片で外面には縱方向の条痕文が主体的に施文されている。31・32・35・36・40は胴部破片で、外面は横方向の沈線で区画された模様帶に縱方向の沈線を充填するように構成されている。39は尖底土器の底部破片で外面には横方向の沈線が2条見られる。全体的には三戸式土器の一群が主体をしめる。



2B-07

2B-15

2B-45

2B-65

2B-49

A A

A A

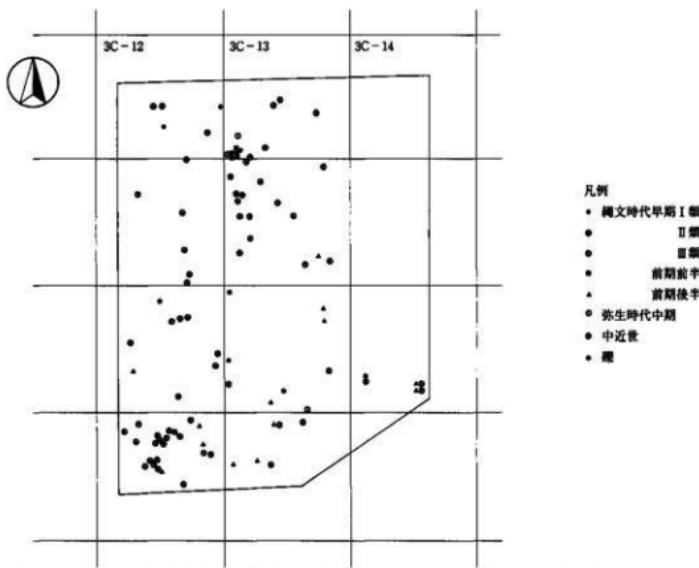
A A



- 凡例
- 土器
 - 繩文時代早期Ⅰ期
 - 繩文時代中期
 - 繩文時代後半
 - 前期前半
 - 前期後半
 - 中期
 - 後期
 - 弓彌時代中期
 - 古墳時代～
 - 中近世

- 石器
- 石器類
 - 磨

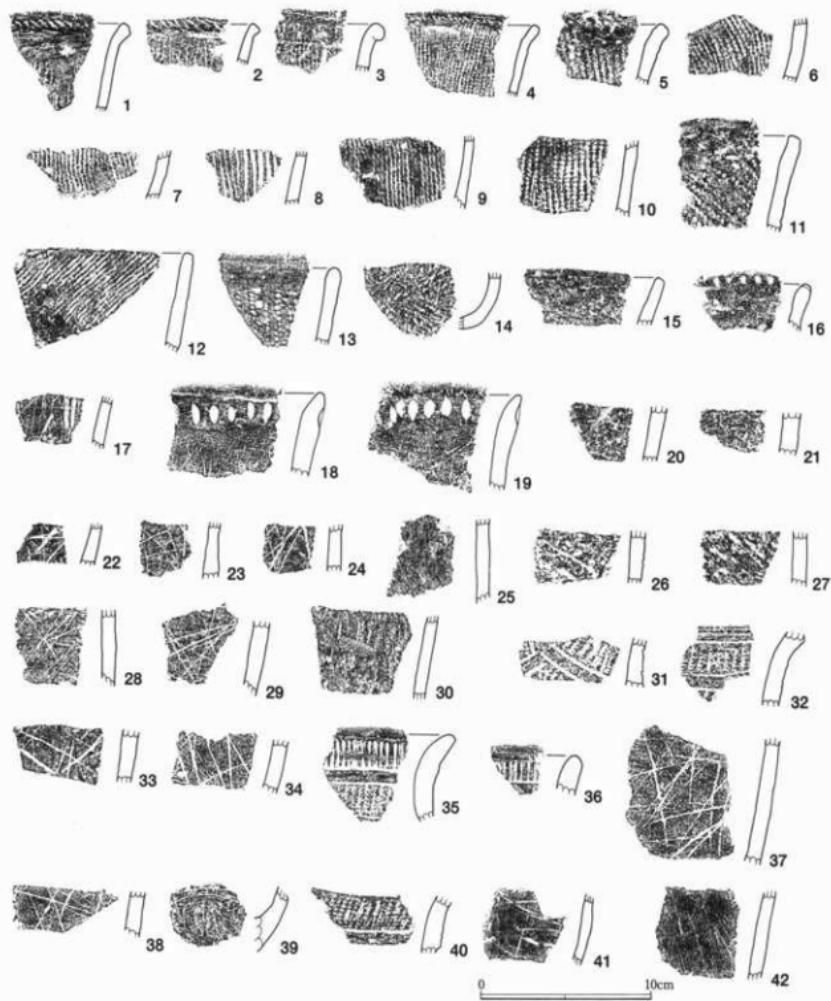
第5図 西三里塚遺跡第1遺物集中地点時期別土器、石器等平面分布図 (S=1/160)



第6図 西三里塚遺跡第2遺物集中地点時期別土器、石器等平面分布図 (S=1/160)

早期I群Ⅲ類 (第8図43~52)

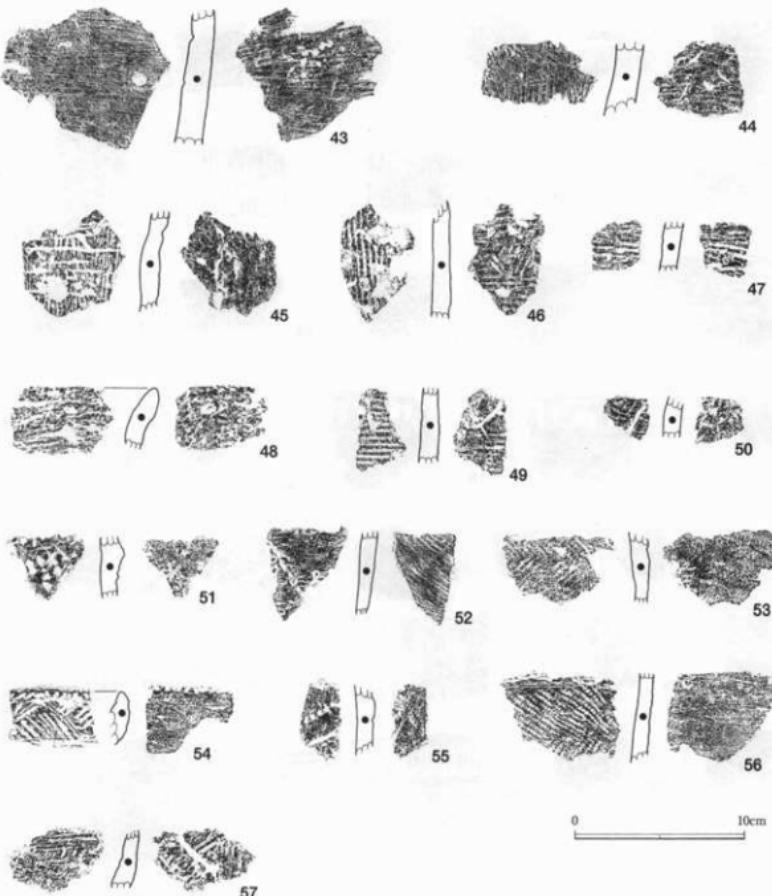
いわゆる条痕文系土器と呼ばれる一群の土器である。全部で23点出土し、2Bグリッド付近で特に多く出土している。43は胴部下半の破片である。厚手の土器で内外面とともに横方向の条痕文が見られる。胎土に繊維が入る。44は底部破片である。厚手の土器で外面に縦方向の条痕文、内面に横方向の条痕文が見られる。胎土に繊維が入る。45は胴部破片である。外面は縦方向の条線を施文後、棒状工具による横方向の細沈線が施文されている。内面はやや粗い調整で仕上げている。胎土には繊維が入る。46は胴部破片である。表面は縦方向の条痕文、裏面は横方向の条痕文でやや粗く仕上げられている。47は胴部破片である。内外面は横方向の条痕文でやや粗く仕上げられている。胎土には繊維が入る。48は口縁部破片である。外面は大半がナデで、若干の条痕が見られる。内面は軽いナデで調整されている。胎土には繊維が入る。49は胴部破片である。内外面とも横方向の条痕文で調整されている。胎土には繊維が入る。50は胴部破片である。外面は横方向の条痕文、内面はやや粗いナデで調整されているようである。51は胴部破片で粘土紐を貼り付けて刺突による施文が行われている。内面はやや粗いナデで仕上げられている。胎土はやや粗く繊維が入る。52はやや薄手の胴部下半の破片である。外面は条痕と円形刺突文が見られる。全体的には茅山上下層の時期のものが多く見られ、若干縄ヶ島台の時期の土器片が混じるようである。



第7図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(1)

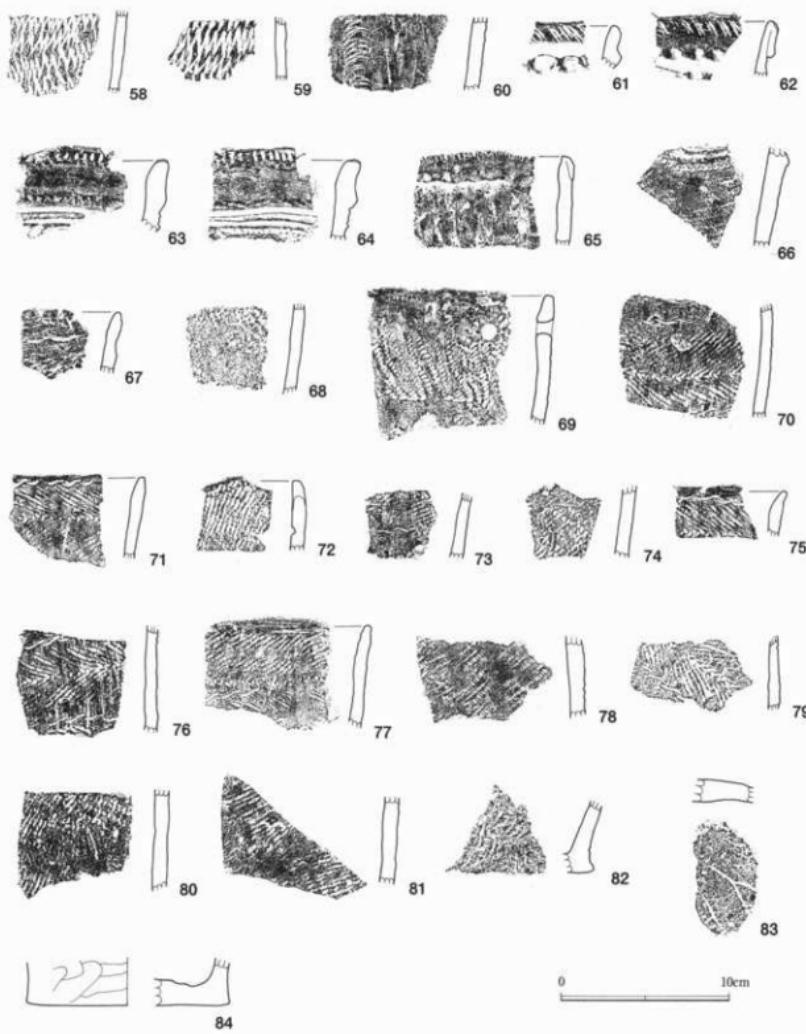
前期前半II群I類(第8図53~57)

いわゆる前期前半の胎土に纖維を混入する土器の一群である。全部で42点出土し、特に2Bグリッド付近で多く出土している。53は胴部破片である。外面は単節の羽状縄文が施文されている。裏面は比較的丁寧にナデで仕上げられている。胎土は粗く纖維が混入されている。54は口縁部破片である。外面口唇部か

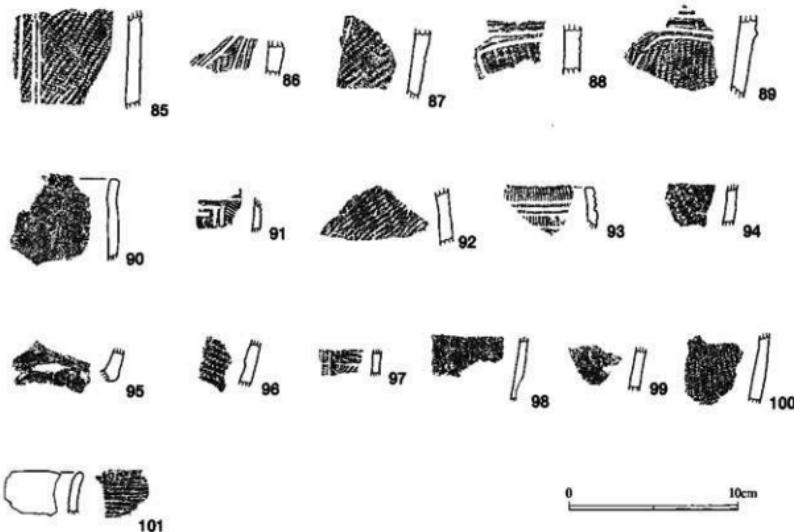


第8図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(2)

ら口縁部にかけて斜め方向の押し引きによる細沈線で鋸歯文が構成されている。内面は横方向のナデで仕上げられている。胎土はやや粗く、繊維が混入されている。55は胴部破片である。外面は曲線的な沈線と刺突文で構成されている。裏面はナデで仕上げられている。胎土は粗く、繊維が少量含まれている。56は胴部破片である。外面は沈線と単節の羽状縄文が施文されている。内面はやや粗く輪積み痕も残す。胎土はやや粗く、繊維を含む。57は胴部破片である。外面には横方向の条痕文が施されている。内面は粗いナデで仕上げられている。胎土は粗く、多くの繊維を含む。全体的には花積下層が主体で黒浜式土器が少し



第9図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(3)

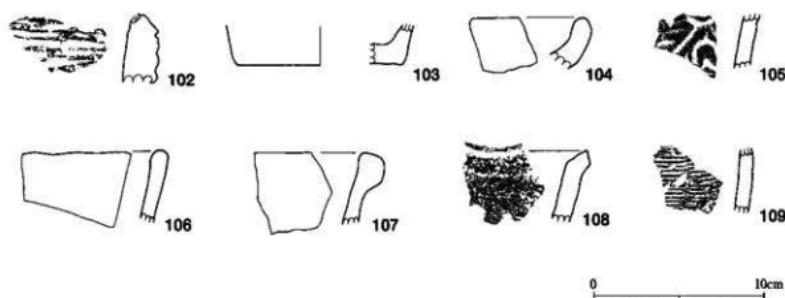


第10図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(4)

見られるようである。

前期後半～中期初頭Ⅱ群Ⅱ類（第9図58～84）

前期後半の貝殻等の工具で施文される竹管文系の土器群と前期末～中期初頭のS字状結節繩文や縄文を主体とする土器群が主体である。全部で168点出土し、2Bグリッド付近で特に多く出土している。58・59は胴部下半部の破片である。外面には横方向の波状貝殻文を施している。胎土に細かな砂粒が多く含む。内面は縦方向のミガキで仕上げられている。60は胴部破片である。外面には縦方向の波状貝殻文と条線文が見られる。内面はナデで仕上げられている。胎土に細かな細粒を多く含む。成形はやや粗く、輪積み痕を残す。興津式と呼ばれる土器片である。61・62は口縁部破片である。外面の口唇部に斜め縦方向の刺み目状の沈線、直下に棒状工具による横方向の三角状の刺突、さらに胴部には条線が見られる。63・64は口縁部破片で外面口唇部に刺み目状の沈線、部分的に縄文を地文にした横方向の沈線と押し引きによる角押文が見られる。65は口縁部破片である。外面口唇部には刺み目を入れ、口縁を折り込み、指頭によりヒダ状に調整をおこなっている。66は胴部上半部破片で、外面には撲糸文を地文に円形刺突文を施している。これらは諸磯系の土器も若干見られるものの、浮島系の土器が主体をしめる。67は口縁部破片である。外面口唇部に刺み目があり、外面にはS字状結節縄文と思われる模様が見られる。やや器面の荒れが目立つ。68は胴部破片である。外面は単節の縄文で施文されているが調整そのものが粗い。胎土には石英小粒がやや含まれる。69はやや大きめの口縁～胴部にかけての破片である。外面は単節縄文で施文されている。口



第11図 西三里塚遺跡包含層出土土器実測図(5)

唇部に刻みと工具等によるナデが見られる。内面はやや丁寧にナデで仕上げられている。70は胴部下半部の破片である。外面は無文帯の下にS字状結節縄文、さらに下に無筋の羽状縄文という構成で施文がなされている。内面は綫方向のミガキで仕上げられている。71は口縁部破片である。外面口唇部にS字状結節縄文、以下に無筋の羽状縄文、さらに上からS字状結節縄文を施文するという形で構成される。内面は横方向のやや粗いナデで仕上げられている。72は波状口縁部の破片である。外面口唇部に縄文を押圧、表面に無筋の縄文を施文している。内面はやや丁寧なナデで仕上げられている。73は胴部下半部の破片である。外面は無筋の縄文を地文にして下方にS字状結節縄文を施文している。内面は綫方向の弱いミガキが見られる。74は胴部下半部分の破片である。外面には浅い無筋の縄文が見られる。内面は綫方向の弱いミガキで調整されている。75は口縁部破片で、71と同様に外面口唇部にS字状結節縄文を施文し、以下に無筋の羽状縄文を配置する構成と思われる。76は胴部下半部分の破片である。外面は無文帯の下にS字状結節縄文、無筋羽状縄文という構成で施文されている。内面には弱いミガキが入るもの、輪積み痕をわずかに残す。施文前に綫方向のヘラケズリが見られる。77は口縁部破片である。外面には無筋の羽状縄文の施文後に、重ねるようにS字状結節縄文を施文している。一部横方向にヘラケズリが行われている。内面は綫方向のヘラナデで仕上げられている。78は胴部下半部分の破片である。外面には単節縄文を施文している。内面はナデで仕上げられている。79は胴部破片である。外面には単節の羽状縄文とS字状結節縄文が見られる。以下の無文帯には斜めのミガキが入る。内面は全体にやや粗いナデで仕上げられている。80は底部破片である。外面には単節縄文が見られる。施文後にミガキが行われ、磨り消し気味である。内面はやや荒れ気味であるが、軽いミガキが認められる。81は底部破片である。外面には無筋の縄文が施されている。内面はやや荒れているもののミガキで調整されていることが解る。82は底部破片である。外面には単節の縄文が見られる。外底面はヘラ削りで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。83は底面破片である。葉脈痕が認められる。内面には指頭痕が見られる。84は底部破片である。外面は横方向のヘラケズリで調整されている。内側は黒変しているため煮沸により被熱したものと思われる。66~82は前期末~中期初頭に該当すると思われる土器群で、この時期のものが多くを占める。

中期～後期Ⅲ群（第10図85～89）

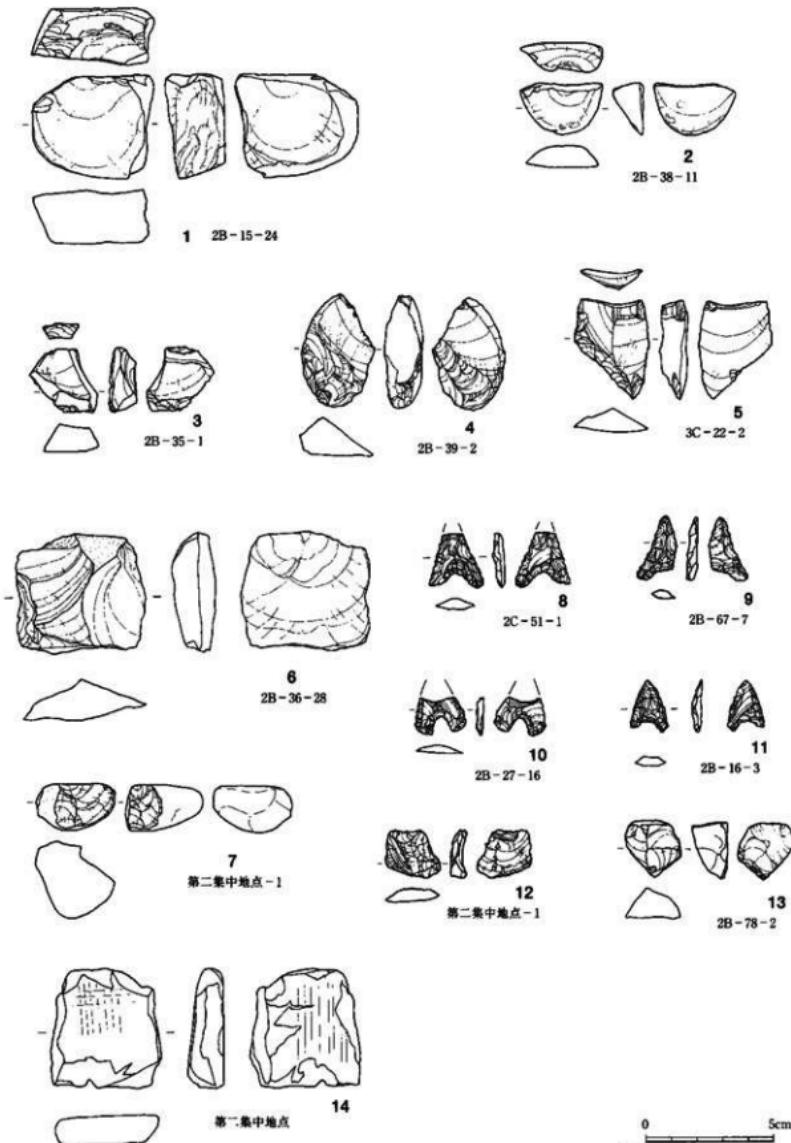
この時期の土器は掲載したものが全てである。2Bグリッドが主体で遺跡全体でも6点のみの出土である。85・87・89は縄文時代の中期加曾利EⅢ式土器である。深鉢形土器の胴部下半部の破片で、単節縄文を地文にして沈線を垂下させている。内面はナデで仕上げられている。86は縄文時代の後期掘之内式土器と思われる。浅鉢形土器の胴部破片と思われる。外面は磨り消し縄文を細沈線で区画している。内面はミガキで仕上げられている。88は縄文時代後期加曾利B式土器と思われる。深鉢形土器の胴部の破片である。外面は縄文を地文にして沈線で文様帯を区画している。内面はミガキで調整されている。

弥生土器（第10図90～101）

縄文早期～前期の包含層から46点の弥生時代中期の土器片が出土している。90は小形の無頸壺の破片である。条線のような模様が見られる。91は器形は不明である。縄文の地文を沈線で区画してある。内面はミガキで仕上げている。92は壺形土器の胴部の破片である。撚糸文を施文している。内面はミガキで仕上げられている。93は鉢形土器の口縁部と思われる。細かな沈線による区画帯の中を細かな沈線による刻みによって充填することで文様を形成している。94は鉢形土器の胴部破片である。縄文を地文としている。被熱のため赤化している。95は壺形土器等の底部破片である。内外面ともにミガキで仕上げられている。胎土は非常に細かい白色砂粒を含む。96は壺形土器等の胴部破片である。縄文を施文している。内面はやや荒れた状態である。中心が黒く、やや焼成不良の感がある。97は壺形土器の頸部等の破片である。沈線に区画された文様帯に細沈線を充填する文様構成である。内面はやや弱いミガキで仕上げられている。98は鉢形土器等の胴部破片である。ナデの後、撚糸文で施文している。下半部は剥落している。内面は丁寧なナデ仕上げと思われる。ミガキも若干見られる。胎土に石英細粒を多く含む。99は鉢形土器等の底部付近の破片である。条痕文が見られる。内面はやや弱いナデで仕上げられている。100は鉢形土器等の胴部破片である。撚糸文で施文されている。内面は弱いミガキで仕上げられている。胎土に石英粒を多く含む。やや硬質な感のする土器である。101は壺形土器等の口縁部破片である。外面は弱い条線もしくは無文に近い。内面は強い条痕で施文されている。全体的には弥生時代中期の短期間の土器群と思われる。

古墳時代～中・近世の土器（第11図102～109）

古墳時代の土師器と思われる土器片は調査区全体で10点出土している。図示可能なものは皆無である。奈良・平安時代の土器片は調査区全体で6点出土している。109は須恵器の壺の胴部の破片である。外面は叩き目、内面には工具痕が見られる。焼成は良好で外面はやや赤みを帯びた淡灰色である。中・近世の時期の土器片等は調査区全体で32点の出土である。102は瓦片と思われる。表面には工具痕が多く見られる。一部鉄錫状の変化が見られる。103は焰烙の底部である。104は焰烙の口縁部である。105は土師質土器の破片で掘り鉢である。外面にやや文様が見られる。106は土師質土器で捏ね鉢と思われる。107は陶質土器の壺の口縁部と思われる。108は土師質土器の鉢形土器破片である。これらの遺物は隣接地にある馬土手が使用されていた時期の生活関連遺物と考えられる。



第12図 西三里塚遺跡包含層出土石器、石製品実測図

石器・石製品

旧石器時代石器（第12図1～3）

1は安山岩B（いわゆるトロトロ石）製の石核である。剥離面を打面にしてやや横広の剥片を剥がしているものである。疊面をかなり残している。小円碟を使った石核で状況から判断して旧石器時代の遺物である可能性が高い。全長4.13cm、幅4.81cm、厚み2.28cm、重量60.84gである。2は安山岩B製の剥片である。背面がやや分厚い扇形になる小剥片である。1と同様に旧石器時代の遺物である可能性が高い。全長2.01cm、幅3.20cm、厚み1.20cm、重量6.81gである。3は珪質頁岩（おそらく嶺岡産）製の剥片である。分厚く不定形な小剥片で背面は主剥離面と同じ方向からの剥離面と左側縁部に節理面を持つ。おそらくは旧石器時代の遺物であろう。全長2.53cm、幅2.54cm、厚み1.06cm、重量7.54gである。

縄文時代石器（第12図4～13）

4は黒曜石（透明度があり夾雜物が少ないもの）製の剥片である。右側縁辺部分に使用痕と思われる微細な剥離が認められる。左側縁部はやや叩かれ潰されているような状況である。縄文時代の石器と思われる。全長4.31cm、幅2.95cm、厚み1.43cm、重量16.07gである。5はチャート（やや茶色がかった灰色でガラス質のもの）製のスクレイパーである。綫長剥片の先端部から左側縁部にかけて連続的な小剥離で調整されている。打面側の折れは使用時に起きたものと思われる。全長3.80cm、幅2.84cm、厚み1.06cm、重量10.03gである。6はホルンフェルス（やや灰色でごつごつした質感のあるもの）製の剥片である。ほぼ方形をしめす剥片で、背面は疊面とやや不規則な板状剥離で剥がされた複数の剥離面で構成されている。打製石斧の一部か未製品とも考えられるものである。全長4.70cm、幅5.10cm、厚み1.70cm、重量40.39gである。7はチャート（青黒色の半透明のガラス質が強いもの）製の両極石器（石核）である。小円碟の上下面から両極打撃で剥離したものでいわゆる両極石器と呼ばれるものである。おそらく縄文時代のものと思われる。全長1.86cm、幅3.10cm、厚み3.08cm、重量19.75gである。8は安山岩A（いわゆる黒色安山岩で風化面が緑灰色を呈する）製の石鎌である。先端部分が欠損している。基部は凹基でやや剥片の剥離面を中程に残すものの周辺部分を表裏とともに丁寧に調整して仕上げている。全長2.09cm、幅2.07cm、厚み0.46cm、重量1.54gである。9は安山岩A製の石鎌である。右側の片脚が折れて欠損している。基部は凹基である。裏面に剥片剥離面をやや残すものの先端部、基部調整とも周辺部を細かく調整して仕上げられている。全長2.51cm、幅1.26cm、厚み0.41cm、重量1.03gである。10は黒曜石製の石鎌である。先端部が欠損している。基部は凹基である。表裏とも剥離面を大きく残している。基部は表裏両面、他は縁辺を調整して仕上げている。全長1.39cm、幅1.98cm、厚み0.27cm、重量0.78gである。11は黒曜石製の石鎌である。完形品である。基部は凹基である。裏面側に一部剥離面を残すが、他は細かく丁寧な調整が施されている。全長1.84cm、幅1.39cm、厚み0.37cm、重量0.78gである。12は黒曜石製の剥片である。背面は右横方向からの剥離面を残すやや不整な台形様の剥片である。全長1.85cm、幅2.14cm、厚み0.68cm、重量2.12gである。13は玻璃質安山岩（一部白っぽい凝灰岩質の部分が認められる）製の両極石器（剥片）である。背面は多方位からの剥離面が残されており、剥片そのものは比較的分厚く小さい。先端部に細かな剥離痕が見られる。全長2.13cm、幅2.06cm、厚み1.40cm、重量6.35gである。

第1表 西三里塚遺跡出土石器・石製品観察表

辨認番号	大 グ リッド	小 グ リッド	遺物番号	時代	種 別	全長mm	幅mm	厚みmm	重さg	標高m	石 材	備考
第12回1	2 B	15	24	石片	旧石器?	41.3	48.1	22.8	60.84	39.447	安山岩B	
第12回2	2 B	38	11	石片	旧石器?	20.1	32.0	12.0	6.81	39.979	珪質頁岩	
第12回3	2 B	35	1	石片	旧石器?	25.3	25.4	7.54	14.3	39.826	黑曜石	一枚剥離面あり
第12回4	2 B	39	2	石片	文文文文文	43.1	29.5	14.3	16.07	39.827	黑曜石	頭部折断
第12回5	3 C	22	2	石片	文文文文文	38.0	28.4	10.6	10.03	40.767	チヤート	横面あり
第12回6	2 B	28	28	石片	スケレイバ---	47.0	51.0	17.0	40.39	39.782	ホルンフェルス	
第12回7	2 B	36	1	石片	兩柄石器(石核)	18.6	31.0	30.8	19.75	チヤート		
第12回8	2 C	51	1	石片	石片	20.9	20.7	4.6	1.54	40.117	安山岩A	先端欠損
第12回9	2 B	67	7	石片	石片	25.1	12.6	4.1	1.03	39.852	黑曜石	片端欠損
第12回10	2 B	27	16	石片	石片	13.9	19.8	2.7	0.78	39.546	黑曜石	先端欠損
第12回11	2 B	16	1	石片	石片	18.4	13.9	3.7	0.78	39.546	黑曜石	完形
第12回12	2 B	78	2	石片	石片	18.5	21.4	6.4	2.12	39.546	黑曜石	
第12回13	2 B	9	1	石片	石片	21.3	20.6	14.0	6.35	40.164	珪質頁岩	
第12回14	2 B	15	8	石片	石片	45.3	42.6	14.7	39.18	39.441	砂岩	
	2 B	16	1	石片	石片				12.6	珪質頁岩		
	2 B	16	9	石片	石片				8.71	頁岩		
	2 B	17	9	石片	石片				14.96	頁岩		
	2 B	18	4	石片	石片				15.88	頁岩		
	2 B	19	11	石片	石片				9.38	矽灰岩		
	2 B	27	1	石片	石片				1.6	矽灰岩		
	2 B	28	1	石片	石片				12.23	矽岩		
	2 B	29	1	石片	石片				6.22	安山岩		
	2 B	35	5	石片	石片(燒成)				9.67	安山岩		
	2 B	38	12	石片	石片(燒成)				20.66	頁岩		
	2 B	39	3	石片	石片(燒成)				58.33	珪質頁岩		
	2 B	42	1	石片	石片(燒成)				110.12	矽灰岩		
	2 B	67	5	石片	石片(燒成)				39.73	矽岩		
	2 C	10	1	石片	石片				7.41	頁岩		
	2 C	13	1	石片	石片				36.35	安山岩		
	2 C	30	2	石片	石片(燒成)				136.01	矽岩		
	2 C	71	2	石片	石片(燒成)				9.73	珪質頁岩		
	2 C	88	2	石片	石片(燒成)				5.69	矽灰岩		
	2 C	98	2	石片	石片(燒成)				27.35	矽岩		
	3 C	3	1	石片	石片(燒成)				14.2	頁岩		
	3 C	32	1	石片	石片(燒成)				22.42	頁岩		
	3 C	33	1	石片	石片(燒成)				32.6	頁岩		
	3 C	33	8	石片	石片(燒成)				4.58	安山岩		
	3 C	34	2	石片	石片(燒成)				113.8	ホルンフェルス		
	3 C	42	7	石片	石片(燒成)				29.89	安山岩		
	3 C	43	3	石片	石片(燒成)				7.13	自然物		
	3 C	43	6	石片	石片(燒成)					自然物		
	第2遺物集中地点											

第2表 西三里塚出土土器大グリッド毎 時代時期別数量表

2B区 第1遺物集中地点

時代別	時期別	点 数	平均重量 g	総 重 量 g	点数割合	重量割合
縄文時代	早期 I 群	103	10.81	1,113.6	27.5%	24.9%
	早期 II 群	60	12.30	737.7	16.0%	16.5%
	早期 III 群	18	23.69	426.4	4.8%	9.5%
	前期前半	24	6.35	152.5	6.4%	3.4%
	前期後半	118	12.91	1,522.9	31.6%	34.0%
	中・後期	5	23.00	115.0	1.3%	2.6%
弥生時代	中期	33	5.92	195.3	8.8%	4.4%
古墳時代	後期	6	11.72	70.3	1.6%	1.6%
奈良・平安		2	3.25	6.5	0.5%	0.1%
中・近世		5	26.62	133.1	1.3%	3.0%
計		374	11.96	4,473.3		

2C区 第1遺物集中地点

時代別	時期別	点 数	平均重量 g	総 重 量 g	点数割合	重量割合
縄文時代	早期 I 群	19	13.45	255.5	17.9%	16.4%
	早期 II 群	7	13.14	92.0	6.6%	5.9%
	早期 III 群	1	11.40	11.4	0.9%	0.7%
	前期前半	13	14.65	190.5	12.3%	12.2%
	前期後半	35	17.49	612.3	33.0%	39.2%
	中・後期	0	0.00	0.0	0.0%	0.0%
弥生時代	中期	10	7.18	71.8	9.4%	4.6%
古墳時代	後期	0	0.00	0.0	0.0%	0.0%
奈良・平安		0	0.00	0.0	0.0%	0.0%
中・近世		21	15.67	329.1	19.8%	21.1%
計		106	14.74	1,562.6		

3C区 第2遺物集中地点

時代別	時期別	点 数	平均重量 g	総 重 量 g	点数割合	重量割合
縄文時代	早期 I 群	8	9.73	77.8	27.5%	4.4%
	早期 II 群	65	15.79	1,026.5	16.0%	58.4%
	早期 III 群	4	51.68	206.7	4.8%	11.8%
	前期前半	5	19.02	95.1	6.4%	5.4%
	前期後半	15	20.34	305.1	31.6%	17.3%
	中・後期	1	4.90	4.9	1.3%	0.3%
弥生時代	中期	3	3.53	10.6	8.8%	0.6%
古墳時代	後期	0	0.00	0.0	1.6%	1.6%
奈良・平安		0	0.00	0.0	0.0%	0.0%
中・近世		6	5.32	31.9	1.3%	1.8%
計		107	16.44	1,758.7		

中・近世石製品（第12図14）

14は凝灰岩製の砥石である。表裏に使用された平滑面が見られる。全長4.53cm、幅4.26cm、厚み1.47cm、重量39.18gである。

第3章 まとめ

旧石器時代 確認調査を実施した拡張区で旧石器時代の石器と思われる遺物が3点程検出されたのみである。空港周辺で調査された該期の遺物は多数あり、その活動の一端をこの遺跡でも垣間見ることができたのではないかと思われる。

縄文時代 確認調査を実施した拡張区で縄文時代早期～前期の包含層を調査し、一括遺物を含め587点の土器片と30点余りの石器及び蝶・蝶片が検出された。2B区では早期I類（燃糸文系土器）の土器片と前期後半～中期初頭（浮島一下小野系）の土器片が多く見られた。隣接した2C区でも似た傾向が窺われる。南側の第2遺物集中地点にあたる3C区では縄文早期II類（沈線文系土器）、特に三戸式、田戸下層等の土器片の割合が高くなっていることから時期により活動範囲が移動していた可能性が窺われる。縄文時代前期後半以降の遺物は非常に減少しており、この台地上では余りみられないようである。

弥生時代 弥生時代中期の土器片が少量ながら見られる。住居等の遺構は調査区内から全く検出されていない。調査区付近での活動は余り認められない。

古墳時代～奈良・平安時代 土器片が少量見られる。住居等の遺構は調査区内から全く検出されていない。調査区付近での活動は余り認められない。

中・近世 少少の土器片が見られる。前回隣接地で西三里塚所在馬土手の調査が行われた。本遺跡も野馬の放牧地の一部である可能性が高いため若干の生活用具等は残っていると思われるが、あまり居住地域に近くないため、その活動はどちらかというと限定的なものにならざるを得ないと考えられる。

写 真 図 版



西三里塚跡と周辺地形（平成13年度）



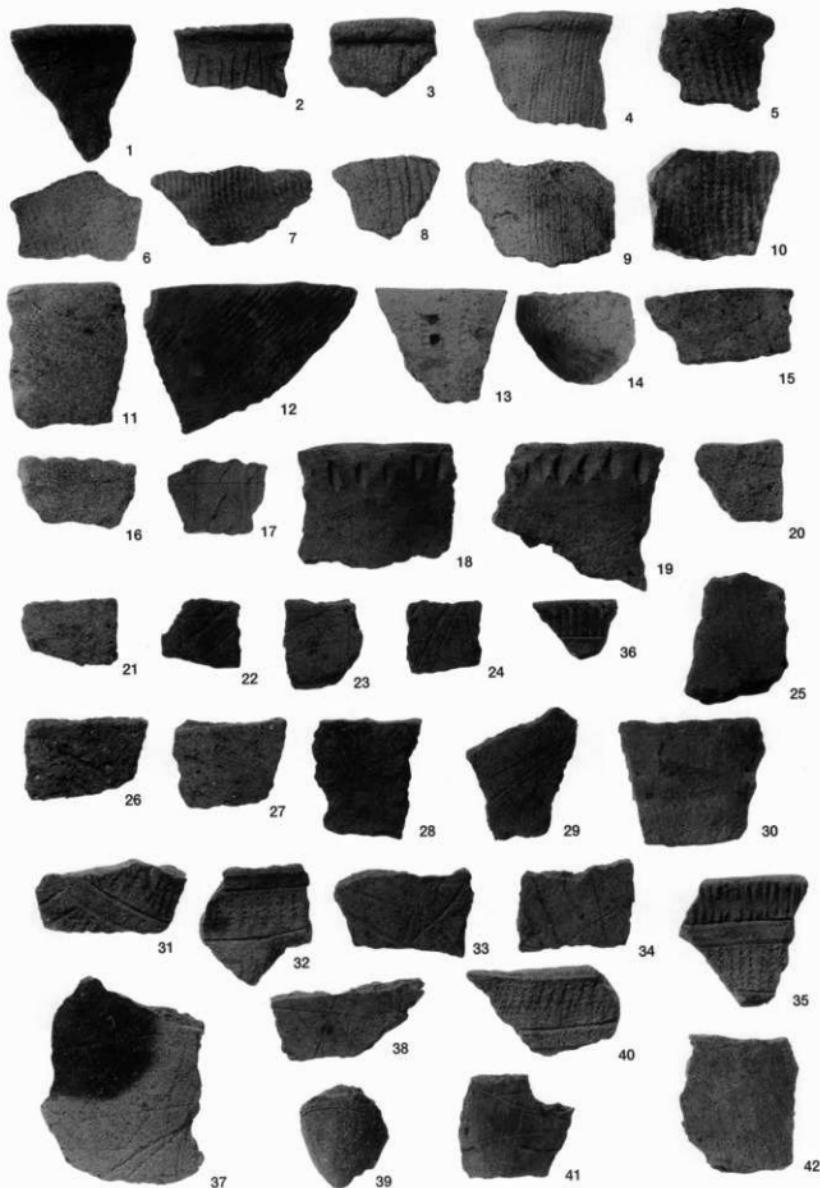
調査風景
南から



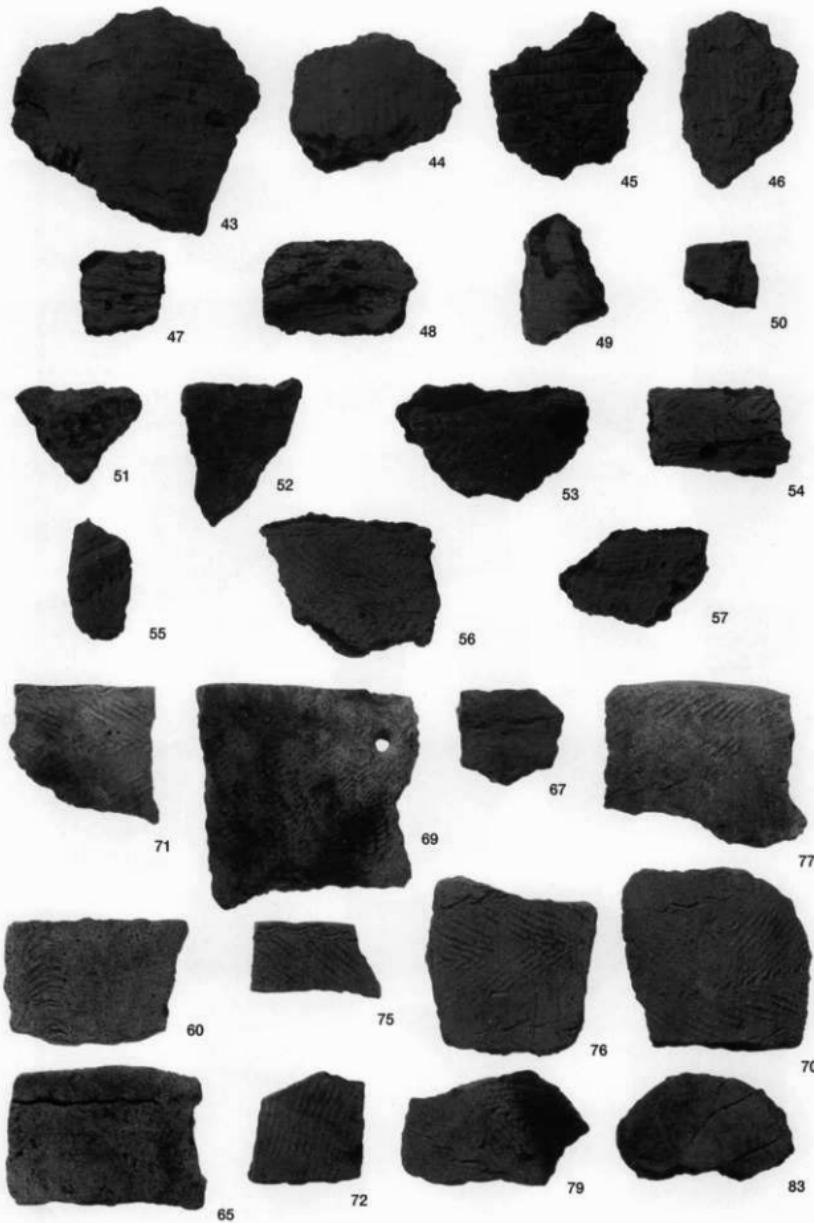
第1遺物集中
地点遺物出土
状況
北から



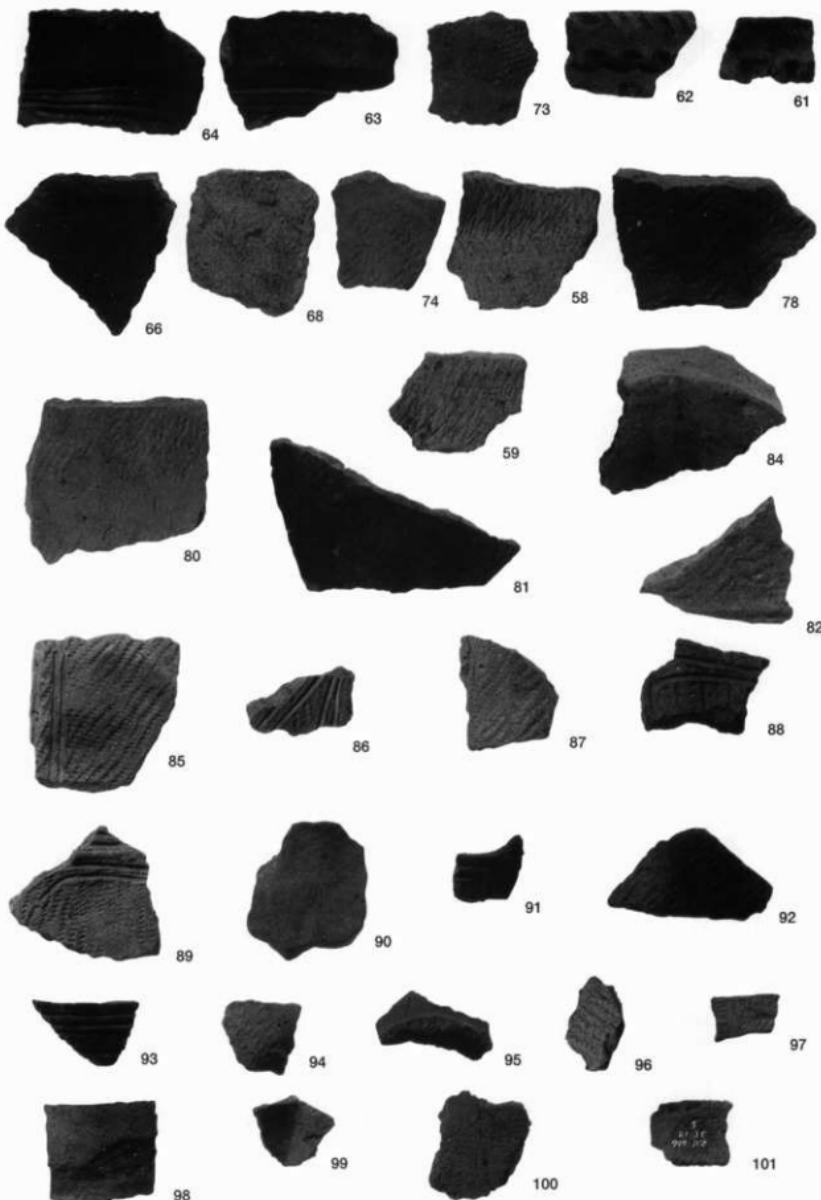
第2遺物集中
地点遺物出土
状況
北から



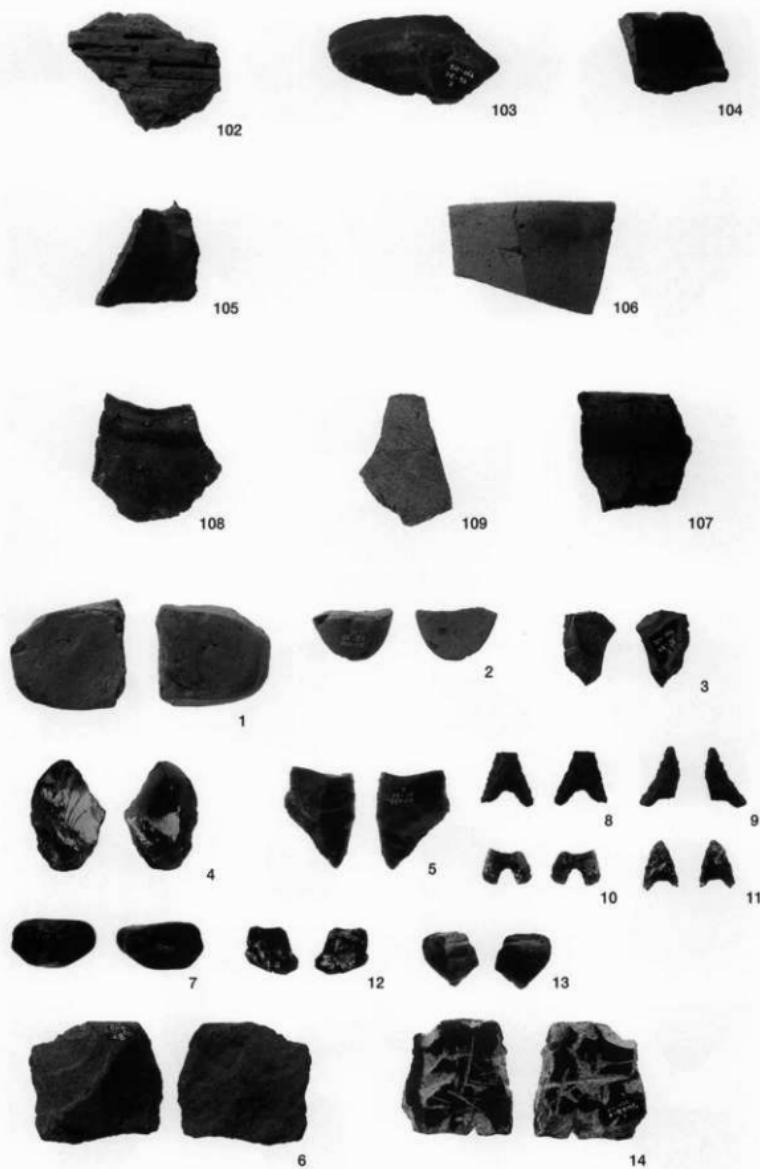
西三里塚遺跡包含層出土土器(1)



西三里塚遺跡包含層出土土器(2)



西三里塚遺跡包含層出土土器(3)



西三里塚遺跡包含層出土石器、石製品

報告書抄録

ふりがな	にしあんりづかだいにだいがえちまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ 2									
書名	西三里塚第2代替地埋蔵文化財調査報告書 2									
副書名	成田市西三里塚遺跡									
卷次	2									
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告									
シリーズ番号	第496集									
編著者名	池田 大助 西口 徹									
編集機関	財団法人千葉県文化財センター									
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811									
発行年月日	西暦2004年9月30日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因		
にしあんりづかだいせき 西三里塚遺跡	ちばけん 千葉県 なりた にしあんりづか 成田市西三里塚 252-6ほか	市町村	遺跡番号	211	066	35度 44分 30秒	140度 23分 00秒	20040106～ 20040130	3,000m ²	代替地の 造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項			
西三里塚遺跡	旧石器 縄文 弥生 古墳～平安 近世			石器 縄文時代早期～前期 土器片 石器、礫・礫片 弥生時代中期 土器片少量 土師器片、須恵器片少量 焰烙片、擂鉢片少量				前期後半～中期 初頭にかけての 土器片が多く出土した。		

千葉県文化財センター調査報告第496集

三里塚第2代替地理蔵文化財調査報告書2

—成田市西三里塚遺跡—

平成16年9月30日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター
発 行 成田国際空港株式会社
成田市木の根字神台2-4
財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809番地2
印 刷 株式会社 ライフ
